

令和6年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。
評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない
○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・組織的に連携して取り組んでいる。 ・校長が懇談会などで説明して下さっていました。 ・11月のいじめ撲滅強調月間に合わせ、いじめ防止の授業に取り組んだ。次年度からは、特活の年間指導計画に入れ、計画的にできるようにしたい。 ・組織力が弱いと感じることがある。部の役割分担があいまいで、関係ない部署が担当することがある。 ・学校だより、HPなどで説明しようとしている。 ・全員が学びやすいように授業づくりに取り組んでいる。 ・説明していますが、保護者がビジョンに対して納得しているのかが、いまいわからないです。	A	・子どもたちが通いたい(通わせたい)学校づくりを目指して組織的に取り組んでいると感じる。 ・懇談会、学校だより、ホームページなどで保護者にビジョンを説明している。今後も年間を通して発信し続けて欲しい。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・避難訓練やシェイクアウト訓練、不審者対応訓練等に取り組んでいる。 ・避難訓練以外でも、大きな地震が起きた日の話をして、防災意識を高めている。 ・様々なパターンを想定した避難訓練や不審者対応訓練が必要であるとする。 ・想定をして訓練を実施しているが、実際の1人1人の動きをより高めていく必要がある。	A	・交通安全については保護者アンケートより、登下校時の見守りの負担軽減(旗当番)や地域とのサポート希望があっていた。学校運営協議会でも話し合っていくとよい。 ・災害や事故等不測の事態に十分かつ迅速に対応できるよう徹底されているように見える。 ・避難訓練、不審者対応訓練などに取り組んでいる。想定外の事態が起こった場合に備えて柔軟な対応ができるように先生方一人一人が心づもりしていただきたい。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	A	・働き方を意識して働いている。 ・会議は、あまり時間が守られていない。時間が長すぎる時がある。終わりの時間を決め共通意識でのぞめるともよいと思う。 ・仕事量が全体的に減ってきている。早めに退勤しやすい雰囲気がある。 ・多くの教員の残業時間が短く、働きやすい環境である。 ・校務パソコンで毎日、月ごとの勤務時間が把握できるので、意識できるようになった。 ・業務の精選が行われ、働き方改革が進んでいる。 ・自分の担当する仕事以外に対して、無関心な人が多いと全体のことでカバーできるようになってほしい。 ・業務を自分で取捨選択し、効率を考えて仕事をしないと、定時に帰ることができない。 ・会議が多いので、もう少し減らしたいです。(企画会、生徒指導会議など) ・業務内容のさらなる精選が必要。現状、授業研究の時間が確保されていない。7時50分に児童が登校し、実質勤務が開始されている。 ・改善策として、水曜日課のような短縮日課をもう一日増やす、勤務時間のフレックス制などが考えられる。また、機能していない委員会をなくすなど業務を減らしたい。 ・定時近くで退勤することを意識している教員が多いことや、今年度の取り組みから来年度の行事や一斉下校の回数の見直しが行われている。	A	・校長先生がよく声かけをしている。 ・会議は事前資料配布、内容抜粋していくと早まると思う。 ・先生方の業務時間内に電話連絡ができない(取れない)保護者への対応について一考していただきたい。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	A	・主体的に児童が学ぶことができている。 ・研修によって、教員の見る力を高めることができている。また全員で授業を見る機会があるがもっと授業を見合う機会が増えるといい。 ・学校全体で授業研究、改善を行っている。 ・放課後の研修が多く、生徒指導などが勤務時間内に対応できないことがある。 ・主体的・対話的で深い学びを目指して、全教員で取り組みたい。 ・校内研修等で他の先生の授業を見ることで、児童の様子や指導方法について知ることができる。より高めていくために、教材研究等の時間を確保しているような先生方と関わりながらやっていく必要がある。 ・授業づくりへの時間が足りない。教師の一番時間をかけるべき業務なので、会議を削減し、授業づくりの時間を増やしたい。 ・学校研究の成果で、どのくらい学力に伸びがあるのか知りたい。 ・月1回の授業研究会を継続的に行うことができている。課題づくり、ペアやグループを取り入れて、いつもつなげられることを保障する授業を追究している。 ・高め合うために授業を見合っているわけではなく、子どもの学びを見るトレーニングとして行っている。市共通項目としてこの文言があるのが気になる。 ・月に一度校内研修が行われており、そこで他教員の授業を参観して、自身の授業に活かすことや、空き時間に授業を見合うことが可能なので、教員自身が授業の研究に努めることができている。	A	・授業の様子を見せていただき1回目と3回目では違いがあり、良い方向に向かっていると感じた。 ・学校公開の様子からGOGOスタンブラーは児童が考え、仲間と協力して1つのイベントを成功させる取り組みによって、主体的な学びにつながる経験ができていると感じる。 ・授業でも学びづくりの取り組みが多く取り入れられている。 ・児童の個性、能力を尊重し、自主性を育む等、教育全体が一丸となり協力し、学習を推進し、他校の範となる状況を感じる。 ・授業参観で講義的ではない授業を多数見せていただいた。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・人権についての取り組みがなされている。 ・いじめ防止の授業に取り組んでもらった。次年度からは、特活の年間指導計画に位置づけ、計画的に取り組めるようにしている。 ・クラスによってだとは思いますが一人一人の自己肯定感の高い印象である。	B	・人材の増員や専科教員など、各教員が余裕をもって授業対応(準備も含め)ができるようになればと考えます。 ・「いじめや自殺をなくすため」の命の授業は大切であるとする。いじめはやられたらやり返しをする。仕返しは恨みしかないがやられても許すということ、和解するということの大切さを話してほしいです。 ・すべてとは言い難いが教員の持つ能力に応じた教育を実践していると感じる。ただ、一部の教員には余裕がないように感じることもある。 ・いじめ防止基本方針があり年間を通して指導されている。 ・学校生活において児童が自分のことを大切な存在であると思うように、先生方の温かな言葉がけを今後もお願いしたい。
	6	児童生徒は、時と場に応じた態度をとることができ、意欲的に学校生活を送っている。	B	・あいさつがよい。明るく気持ちのよいあいさつができる。 ・挨拶できる児童もいるが、自発的にできる子が少ない。また恥ずかしがりできない児童もいる。自分からするという児童の意識を育てたい。 ・学校で統一した指導・見届けを徹底したい。基本的なルールの徹底を、教職員の共通理解のもとで行う必要がある。 ・授業考案できっちりあいさつさせることを意識している。 ・あいさつが返ってこない児童もいる。職員室にいと入室の際に言葉遣いや態度が気になる児童が見られる。 ・担任以外への職員に対して挨拶をしない児童が多いと感じる。年々、あいさつができない児童が増えている。こちらから声をかけてもあいさつをしない。 ・学校としてあいさつができないと感じる。教師も積極的にあいさつをし、児童に関われるとよい。またなぜ子どもはあいさつしないのかを考えてみたい。 ・授業や委員会の活動中でも集中していないと感じる児童がいて、全体的に昨年と比較して落ち着いたのささを感じている。 ・朝のあいさつ運動から進んであいさつをすることができる児童生徒は少ない印象である。あいさつを自ら進んで行うにはどうすればよいのか、何故あいさつを進んで行っているのかを考える時間を作り、実践していくことが改善策の一つなのではないかと考える。 ・提出物の期限がルールになっている児童が多いと感じる。 ・給食時間に使用するマスクなど持ち物の忘れも頻繁に見られる。 ・事前に連絡をしても忘れ物が多い。 ・時間や物に対する意識が薄く、時間や期日に遅れでも、物を紛失しても気にならない。という児童が増えてきた。 ・提出物と忘れ物に関しては、児童が固定化されている。	B	・あいさつの大切さ、元気であいさつする子や小さな声であいさつをする子、恥ずかしくてあいさつできない子、様々ですが先生方が常にあいさつをし、声かけをする。子どもの個性を尊重し一人一人に寄り添って欲しいと思います。 ・児童には持てる能力や個性、家庭環境があり、一方的に評価すべきではないと思う。 ・朝のあいさつをできる児童はほとんどいない。しかしこちらから声かけをすると会釈したり、目を向けたり、顔を上げたり、耳を傾けたりとほとんどの児童が反応している。先生方も積極的にあいさつをして明るく子どもたちを迎え入れていただきたい。 ・教室に入っている時間に外で遊んでいる児童を見ることがある。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のための研修や活動に積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・倫理確立に努め、定期的に実施している。また教頭による倫理確立委員会が講義型でなく、みんなで考えながら進めるのでよい。 ・大きな事故なく過ごせている。 ・困ったときに相談できる先生方が多くいる。 ・周りの人に相談しやすく、情報交換しやすい雰囲気である。 ・職員同士でコミュニケーションをとることが出来ており、不祥事防止にもつながっている。 ・教職員事故防止の研修だけでなく、市教委から提供される自校車の規則改正や部落差別などの教職員事故防止につながる情報を積極的に取り入れている。	A	・管理職と一般の先生方とのコミュニケーションが取れている。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にする態度で接している。(市共通項目)	A	・個に応じた支援を心がけている。 ・不登校対応は難しい対応になりますが、よく話し合って方針を決めていると思う。 ・本校の校内支援教室はすぐ効果的だと思う。ぜひ市内に広めるとよい。 ・指導後に、今の言葉遣いで大丈夫だったかどうか、感情的で余計な一言だったのではないかと反省することがある。 ・個に応じた指導や、保護者への傾聴は大変良いと感じる。しかし、威圧的な言葉遣いや態度はときどき見られる。 ・児童に対して「きまり」を優先した指導が時々見られるので、児童に自らの行動を考えさせる関わり方が必要だと思う。 ・不登校対応は一部の教員の負担にならないように、保護者と相談し、できることだけ続けるようにしたい。 ・担任以外の人も、一人ひとりに寄り添い、支援策を考えていくと良いと思います。	A	・一人一人を大切にしている様子が感じられる。 ・支援員さんがうまく活用されていた。 ・不登校支援として特別教室(支援教室)を設置し、個に応じたきめ細やかな支援を行っていると感じる。 ・子どもたちが安心できる居場所づくりが必要。常に励まし続け、一人を優しく関わり続けることが大切である。(不登校児童への対策) ・児童が先生方を慕って話したり遊んだりする姿を見かけます。 ・先生方も個性があり表情、声、口調が様々。児童が安心して学校で学べるように心がこもった言葉がけ、温かい雰囲気づくりをお願いしたい。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。(市共通項目)	A	・特別支援の児童が安心して生活できるよう努めており、交流級の教員同士が密に連絡を取り合っている。 ・1回/週のS5、1回/月の特別支援委員会でよく相談し、合意形成が図れている。 ・1人1人に合った対応ができるように、対策をいろいろと考えているが、それが実際に対応する先生方の負担にならないようにできるといいと思う。	A	・一人一人を大切にしている様子が感じられる。 ・支援員さんがうまく活用されていた。 ・特別支援学級の先生と通常学級の先生との連携は大切である。自己肯定感を高め、小さなことでできたらほめること、良かったこと等保護者に伝えていく。無限の可能性を信じて見守っていった欲しいです。情報が安定してくると思います。 ・日々の実践が素晴らしいものであると感じている。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・掃除用具など、整理させれおり、担当の先生がとても管理維持している。 ・学校で統一した指導・見届けを徹底したい。。 ・清掃後の用具の出しっぱなしが多い。 ・空き教室など、児童の目につくところが雑然としている。 ・清掃区分・責任者については、令和7年度初めに、見直しをしたいと考えている。 ・清掃担当の先生に清掃で使えるものを増やしてもらったり、情報を提供してもらえたりするので、ありがたい。他の教員も、このように、自らの分掌を自分の判断でどんどん充実できるようにしていきたい。 ・清掃ロッカーに掲示されている学年が今年度清掃担当をしている学年と異なるロッカーがあり、何年生がどの清掃ロッカーを使うのが困惑することがある。 ・清掃担当を決める際に担当学年で使用する清掃ロッカーを整えるなど年度が変わる際に取り組むことができると1年間使いやすいのではないかと考える。	A	・教室ドアの改修等が進み、安全な環境となっている。 ・児童が立ち入りしてはいけない場所、遊んではいけない場所の周知を徹底していただきたい。学校敷地内の木の枝が児童が通る所に出ていたりすることがある。 ・ゴミが落ちたままのことがある。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	A	・ホームページが充実し更新されている。(写真が随時更新されていて素晴らしい。) ・ホームページ、不定期ですが、確実に更新している。担当者には感謝している。 ・ホームページは更新する教員をもっと増やしてほしい。研修会を設けてもいいかと思う。	A	・適切に対応していると思うが保護者との交流がもっとあってよいのではないかと。 ・地域に回覧(学校だより)が回っている。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	・学校応援団の方をお呼びして、お花植えを実施したり、地域の方と協力したりして、連携を取っている。 ・いじめの対応について、市教委や警察と連携して指導した。 ・もっと連携できるようにするには、仕組みづくりが必要かと思います。保護者が協力的であるので、もっと力を貸してもらえるとよい。	A	・不登校対策については努力をされている様子があつた。 ・学校応援団や保護者への呼びかけをもっと頻繁にして頼ってみてはどうでしょうか？子どもや学校に関心がある方は協力したいと思っているのではないかと思います。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	・小中がつながるための企画が立案されている。 ・千代田中学校区の授業参観がよい。坂戸中学校区も、もう少しあるとよい。 ・小中連携をとっているが、一貫した指導は取れていないと感じる。 ・夏の研修でいろいろ意見を出すか、そこから先に進まない。合同の取組は難しいので、学期ごとにやっている授業参観は続けたい。 ・やり方の共通理解というより、目的の共有はしておきたい。	B	・年に何回か教員の研修を行い、前に進んでいると感じる。 ・適切に取り組んでいる考えます。 ・小学校で学校に通ってこられた子どもがその先も通い続けられるように小中の連携を期待している。